プール水遊びマニュアル

安全対策

〇緊急事態への対応と事故防止について

・プール事故集合訓練の実施（訓練の中で救命処置の手順・職員の動きを確認する）

・心肺蘇生法・AED 講習会の実施（取手消防来所にて講習実施 R7,6,9）

活動実施の判断

〇プール遊びができる環境かどうか（一つでも当てはまる時は中止する）

・気温35℃以上、暑さ指数（WBGT）31℃以上。（熱中症アラートが出ている時）

・上限温度目安：水温＋気温が50℃未満または65℃以上の時

・PM2.5 の注意喚起の時 ・雨天、強風、雷など天候不良の時

・職員の数が少ない等、十分な監視体制が確保できない時

環境の整備

〇プールに入る日に行うこと

・プールサイドにテントを設置し、日よけ対策を行う

・プールの清掃、整理を行う

・プールに破損や亀裂がないか確認する

・ビニールプールや浮き輪は空気が抜けていないか確認する

・プールサイドに危険なものが落ちていないか確認する

準備物

・塩素剤 ・気温計・水温計・足ふきマット ・時計 ・緊急時の手順セット ・応急手当セット ・毛布 ・バスタオル・排泄処理セット ・嘔吐処理セット ・ゴミ箱 ・玩具

・プール日誌

活動前

（プール）

・適正な遊離残留塩素濃度になっているか確認する。

・破損している玩具がないか確認する

・後半に入るクラスは、プールに入る前に再度水温を確認する

（子ども）

・連絡帳で睡眠、食欲、元気があるか確認する

・体温、顔色、機嫌、便の状態等、子どもの健康状態を把握する

・目ヤニ、充血、鼻水、発疹（とびひ、水いぼ、手足口病）等がないか確認する

・傷（出血、化膿等）はないか確認する

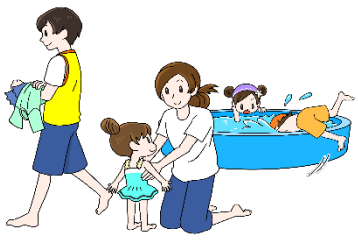
・水分補給を行う

（職員）
・職員の健康状態を確認する
・プールに入る子どもの人数の把握を行う
・職員間で役割分担（監視を行う人、プール指導を行う人）を行う
・子どもとお約束や入り方の確認をする

1、 プールの水をのまない
2、 プールでは押さない
3、 プールに登らない
4、 飛び込まない
5、 走らない

活動中
（プール指導を行う職員）
・子どもの健康状態（顔色や身体の様子）を確認する
・子どもの人数を 5 分おきに確認する
・入水中に排便があった時には、プールから子どもをあげ、便をとって水を流す

（監視を行う職員）・誰が見ても「監視者」とわかるように、目印等を決めておく。（帽子、緊急時の笛等を活用する等）
☆子どもたちと遊んだり、プール指導者の補助をせず、監視に専念する
・入水せず、プールサイドから水面、水の中をくまなく監視する
・プールに入っている子どもの人数を把握し、適宜確認する
・動かない子や不自然な動きをしている子がいないか確認する⇒静かに溺れることが多
・特定の子どもに目線を固定せず、個々の特性を理解し、規則的に目線を動かしながら全体を監視する。⇒異常かどうかの見極めは、顔（特に目）を見る。
・持ち場を離れる時は、代わりの職員を配置する
・子どもが全員プールからあがるまで目を離さない



活動後
・子どもがプールから全員あがっているか確認する
・シャワーで体を洗い流し、タオルでしっかり拭く
・子どもの健康状態（顔色、身体の様子、・水分補給をする
・部屋の温度が適切かどうか確認する怪我など）を確認する
・プール内に遊具が残っていないか確認し、浮き輪などは飛ばないようにまとめる
・プールや玩具に破損がないかを確認する